

○後藤守議長 日程第1，一般質問を行います。

通告順に発言を許します。

19番黒沢義久議員の発言を許します。

〔19番 黒沢義久議員 登壇〕

○19番（黒沢義久議員） それでは，議長のお許しをいただきましたので，通告に基づきまして一般質問を行います。

最初に，市長の政治姿勢の中で，第5次総合計画後期基本計画の推進についての第1点目として，平成25年度の予算編成方針の基本的な考えについてお伺いをいたします。

予算編成に当たりましては，第5次総合計画後期基本計画の実施計画に基づいて，事業の優先順位や財政状況等を見きわめながら予算編成に当たられていると思いますが，平成25年度の予算編成はどのような方針で進められるのか，基本的な考え方についてお伺いをいたします。

次に，2点目として，平成24年度からの第5次総合計画後期基本計画の重点戦略の今後の取り組みについてお伺いをいたします。

大久保市長におかれましては，平成17年5月に就任されてから8年目に入っておりますが，この間，平成19年に策定した第5次総合計画に基づき，職員の意識改革や地域懇談会を開催し，地域の一体感の醸成に努めるとともに，少子化，人口減少対策，若者定住促進，地産地消の推進，企業誘致，市債残高の減額などに取り組むなど，多くの施策を推進し成果を上げてまいりました。さらには，東日本大震災の被害対策への迅速な対応として，生活基盤の復旧や市民生活支援など復旧復興が着実に進んでいる状況であります。

そこでお伺いしたいのは，平成24年度からの第5次総合計画後期基本計画には，常陸太田市の最重要課題でもあるストップ少子化・若者定住戦略を初め，6項目の重点戦略が掲げられており，これらの取り組みがいまだ道半ばであり，引き続き常陸太田市の将来像として掲げる「快適空間～自然・歴史を活かし，人・地域がかがやく協働のまち～」を目指していくために，市長の3期目に対する考えをお伺いいたします。

次に，広域的な幹線道路の整備について，常陸太田南部幹線道路として整備している県道下土木内常陸太田線，及び市道0120号線磯部天神林線の整備の進捗状況についてお伺いをいたします。

道路は産業，経済を支え，観光交流人口の増大，地域間連携，物流の効率化を図ることができ，特に今回の震災の教訓として，広域的な幹線道路のネットワークの拡充の重要性を再認識しているところであります。第5次総合計画後期基本計画には，広域的な幹線道路の整備促進として国道293号，349号，461号，県道，幹線市道の整備促進について掲げられ，これらの国，県道の整備促進につきましては，要望活動が展開されているところですが，お伺いしたいのは常磐道へ接続している常陸太田南部幹線道路についてであります。

この幹線道路を構成する路線の県道下土木内常陸太田線，及び市道0120号線磯部天神林線の整備を促進することにより，本市の南部地域から常磐道へのアクセスを含めた道路ネットワークの拡充と，峰山中学校への通学路の安全の確保が図られますことから，両路線の整備の進捗状

況と今後の予定についてお伺いをいたします。

以上で、1 回目の質問を終わります。

○後藤守議長 答弁を求めます。市長。

〔大久保太一市長 登壇〕

○大久保太一市長 初めに、常陸太田市の第5次総合計画後期基本計画の推進の中で、平成25年度の予算編成方針についてお尋ねがございました。

平成25年度の予算編成方針でございますが、本年8月末に閣議決定されました中期財政フレームにおきまして、平成25年度から平成27年度までの地方の一般財源総額は、平成24年度地方財政計画の水準を下回らないよう確保するとされたところでございます。しかしながら、本市の場合、地方交付税の合併算定替え20億8,000万円、これは平成23年度の普通交付税算定ベースでございますが、平成27年度よりこの20億8,000万円が通減となりますことから、これらを念頭に置いた予算編成に当たる必要がございます。

このため、定員適正化計画の推進による人件費の削減など、行政改革の推進によりまして財源の捻出に努め、本市の重要課題であります少子化、人口減少対策、公共施設の耐震化、産業の振興、人材の育成などに重点配分を行いながら、将来世代に負担を残さない方針のもとに予算編成を進めてまいりたいと考えております。

次に、2点目の市長の3期目に対する考え方についてお尋ねがございました。当市が合併をいたしまして、直後に市長に就任をさせていただきました。まず最初に考えましたことが、合併後の地域全体の一体感の醸成ということを念頭に置きまして、できる限りそれぞれの地域での意見を聞きますために、地域に出かけまして、地域の課題や市民の皆さんの意見に耳を傾けながら、公正公平を念頭に置きまして市政執行をしてきたところでございます。

そして、新市を立ち上げるに当たりましては、新市建設計画が合併協議会で決定をされておりまして、これらに基づきまして、第5次総合計画の描く将来像「快適空間」の実現を目指し、「輝く人をつくる」「安らぎのある快適環境をつくる」「町の元気をつくる」の各施策を、市民協働とエコミュージアムの活動を柱としながら、これまで着実に推進してきたところでございます。

また、昨年3月11日に発生いたしました東日本大震災後は、市民生活の一日も早い再建や都市基盤、生活基盤の復旧、産業の再生、復興などに努めますとともに、災害に強い安全安心なまちづくりに取り組んできたところであります。しかしながら、少子化、人口減少抑制対策、小中学校などの公共施設の耐震化整備あるいは産業の振興など、これらも今後も取り組んでいかなければならない大きな課題がございます。また、合併特例期間の終了によります地方交付税の段階的な減額への対応につきましては、合併算定替え加算通減後の財政運営基盤の整備が必要となっているところでございます。

本年3月には、今年度から5年間の新たなまちづくりの基本となる後期基本計画を策定をいたしました。残された課題を1つずつ仕上げていくことが、市長として市民への責任を果たすことだと強く思っているところでございます。市民の皆様、市議会議員の皆様にご支援、ご協力をお願い申し上げ、常陸太田市のさらなる発展のために全力で重責を果たしてまいりたいと考えて

おります。

○後藤守議長 建設部長。

〔鈴木典夫建設部長 登壇〕

○鈴木典夫建設部長 2番目の広域的な幹線道路の整備、常陸太田南部幹線道路の整備の状況について、県道下土木内常陸太田線及び市道0120号線磯部天神林線の整備の進捗状況と今後の予定についてでございます。

まず、県の事業で進めております県道下土木内常陸太田線についてでございますが、総延長2.8キロメートルのうち、常陸太田工事事務所で内田町から上土木内町までの約1.6キロメートル、高萩工事事務所管内としまして日立市神田町から国道6号までの約1.2キロメートルについて、現道を拡幅する工事とバイパス工事をする区間として整備する計画で事業が進められております。現在は両工事事務所とも用地取得を行っているところであり、今後は用地取得の状況を見ながら、整備工事を進めていくと伺っております。市としましても、早期完成に向け、地元対応等の協力をしてまいりたいと考えております。

次に、市道0120号線磯部天神林線についてでございます。この路線は、西側の県道日立笠間線から、国道349号と県道下土木内常陸太田線との交差点まで総延長約3キロメートルの路線で、現在までに県道日立笠間線から東へ440メートルの地点から、JR谷河原駅の手前、西側220メートルの地点までの約2キロメートル区間の整備が完成しております。今年度は天神林町の延長180メートル、谷河原町、磯部町の190メートルの改良工事を発注し、整備を進めているところでございます。

まだ用地の協力が得られない箇所があること、JR谷河原駅北側の踏切部分の拡幅工事についてJRと協議を重ねておるところでございます。今後も地権者の皆様のご協力を得られるよう交渉を進めるとともに、JRにつきましても引き続き協議を進めて、本路線の早期完成に向け取り組んでまいります。

○後藤守議長 黒沢議員。

〔19番 黒沢義久議員 質問者席へ〕

○19番（黒沢義久議員） ご答弁ありがとうございました。予算編成方針、それと広域的な幹線道路の整備については了解をいたしました。また、第5次総合計画後期基本計画の重点戦略の今後の取り組みについて、市長の3期目に対する前向きな思いを聞かせていただきました。大久保市長には2期8年の実績と経験をもとに、今後とも職員の先頭に立ち、常陸太田市の将来像として掲げる「快適空間～自然・歴史を活かし、人・地域がかがやく協働のまち～」を目指し、市政のかじ取りをお願いいたしますとともに、常陸太田市のさらなる発展のために大いにご期待を申し上げまして、私の一般質問を終わります。

ありがとうございました。